

JR 北海道の駅整備に関するデザインの取り組みに対して

北海道旅客鉄道株式会社

当社のアート・デザイン企画室は発足してから、今年で31年目となりますが、このようなオフィシャルの場で評価をいただいたのは初めてで、大変嬉しく思っております。

公共交通のサイン計画には、事業者自らその奥深さを知っていなければなりません。それには、社内に公共サインの知識を持った人材が必要になります。弊社にはこのようなインハウスデザイン部門があり、制作・取付などの指示、条件に合った仕様の提示や、調整を行っております。

また、サインの重要性は現場社員も知っており、お客様からのご意見を反映するために自ら調査・研究しております。現場で考察した内容は更にこのデザイン部門で精査します。単にマニュアルだけでは対応出来ない事柄も沢山あるからです。さらに、きっぷなどの宣伝物（ディスプレイ）もサインと同様、テキストによる教育をしており、今回の賞は現場社員へのエールでもあります。まだまだ不十分ではありますが、これらサイン・ディスプレイに関心を持てるようになったのは、このデザイン部門が確実に機能しているからだと言えます。今回、選考にあられた皆様にご理解いただいた事、心より感謝いたします。

(北海道旅客鉄道株式会社)

